

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 2年 4月 8日

事業所名

放課後等デイサービス ロケット

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			個別の部屋やパーテーション、運動スペースを十分確保している。	定員10名に対しては基準の以上のスペースを確保している。
	2 職員の配置数は適切である	5			人員配置基準を満たしている。	保育士・児童指導員等の資格者を配置している
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4		1	段差は便利グッズで改善し必要な場所には手すりやスロープなどは設置している。	必要に応じて、その都度利用しやすいように施設の改善、改築を行う。
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	1		職員会議を実施し個別のニーズに沿ったアプローチの検討を行い、職員研修を行いスキルアップを図っている	療育中でも気になった時は、ミーティング等で職員間での意見交換・共通理解を深めている。緊急を要する場合もすぐに支援会議ができる体制をとっている
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	1		保護者様の意向は送迎時やいつでも相談できる体制を整えている。	保護者様からの意見・意向やアンケート等をもとに検証を行い、改善点を明確にして業務改善につなげていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している			5		初年度の為、自己評価の結果を公表しておらず、ホームページにて公表予定
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				7	外部評価は行ってない。今後、外部評価については検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1		外部・内部研修を行い資質向上につとめている。	職員の意識・技術向上の為、積極的に研修会参加を増やしたい。また、研修報告会など設けて、全職員のレベルアップを図りたい。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			アセスメントで細かい情報を見つける事で課題が見えるようになっている	利用者様と保護者様からのニーズ聞き取りや特性の分析をおこない、支援計画書を作成している。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	3		保護者様からの聞き取り等から状況を把握する為にきめ細かな、支援計画書の作成ツールとしている。	アセスメントはモニタリング時や計画時、状況の変化があった場合に見直しできるようにしている。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5			職員内で発達段階や特性に応じた計画立案をおこなっている	職員の意見・アイデア聞いてきめ細やかな療育につなげる
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			利用者様の特性を理解し、利用者に適したプログラムを工夫している。	季節行事を取り入れたり、工場見学など文化活動に参加している。また、ワーク等に対する意欲・興味が短時間しか持たない利用者様には特に配慮している。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5			事前に家族の意見を聞き、その課題に取り組めるように努力している。	状況に応じてプログラムの設定をしている
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5			利用者様ひとりの特性を理解し状況や状態に合わせた無理のない計画を立案している。	利用者様の状況や障害特性を考慮して、課題を捉え、計画を作成している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1		利用者様たちの状況確認や基本的な支援内容や役割分担を確認している。	職員間の共通理解の為、基本的な支援内容や役割分担を確認し打ち合わせができるようにする

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		1	送迎まで終了した後に振り返りを行い課題の確認を行う。または、翌朝に行っている。	必要に応じて、気づいた点については話し合い情報の共有理解に努める	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	1		日々の記録は連絡帳や日誌等に記録している。	日々の記録を徹底している。記者者によっての感覚の差を調整していく。それらを活用し支援の検証・改善に努めている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			支援会議を開催し、支援者の意見を聞き、モニタリングを実施している。	定期的なモニタリング以外にも職員会議の際には、個別会議を行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	1		生活支援、外出支援、学習支援などを組み合わせ取り組んでいる。	創作活動・地域交流の活動を積極的に行い、体を使った運動等を組み合わせ支援をおこなっている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	2		利用者様の様子を知る者が参加している。	保育士等も参加してもらう為、情報共有をきちんと行うように工夫している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5			学校との情報共有については送迎時の引継ぎや支援会議の実施や参加を行っている	送迎の際などでの、学校からの引継ぎ等で密に連携ができるように努めている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			5		該当する児童がいない。	医療的ケア児については医療面の設備の対応が不十分のために基本的に受け入れ予定はない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	2		利用の前には保育所等の関係機関との連絡、調整を行い相互理解に努めている。	関係機関との連絡、調整や関わりについて、対応等の苦慮した場合電話等ですぐ対応してもらえるようにしている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			5		該当する児童がいない。	今後、検討する予定
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3			専門機関がおこなう研修等への参加を行っている。	積極的に専門機関がおこなう研修等への参加を行っている予定
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	1	2		現在、交流する機会がない。	今後、機会を設ける予定
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	3	2			杵藤地区子ども支援部会への参加を行っている。	地域自立支援協議会等への参加をしたい
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5				連絡帳・送迎時・電話・不定期の面談等で情報共有につとめている。	送迎時や連絡帳。ライン・面談・電話相談等で共通理解を図っている。フェイスブックにて日々の様子を配信している。（個人情報保護・管理は十分注意して行っている）
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	3	1		佐賀県療育センター主催の講習会ポスター等を掲示し、スタッフや保護者が参加できるようにしている。	佐賀県療育センター主催の講習会ポスター等を掲示し、スタッフや保護者が参加できるようにしている。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1	契約時などでやっている。	支援の内容、利用者負担等は、できるだけ説明できる機会を増やすようにしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1	いつでも相談が聞ける体制を整え適切な助言をしている。	送迎時に本人の様子を伝えたり、連絡帳のやり取りの中で悩み等を聞く機会をつくり、必要に応じて相談やアドバイスをやっている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		2	3	今年度は保護者様同士の交流の機会を設けることができませんでした。	今後、保護者様が参加しやすい交流の機会を設けるようにして保護者様と情報交換としての茶話会や個別面談の充実を図る。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1	内容は記録し、苦情相談責任者へ報告し、迅速な解決に向けて取り組んでいる。	苦情に対する窓口や担当者を決めて対応している。また契約時にも周知している。また、苦情に対して、きちんと事実確認を行い、保護者様に分かりやすく明確に説明等を行う様にする	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			お便りなどで活動の内容や情報を発信している。また、ホームページやfacebookでも情報を広く発信している。	日々の活動様子や行事もフェイスブックで配信している。フェイスブックについて顔出し等の個人情報取り扱いにはモザイク加工をおこなっている。
	35	個人情報に十分注意している	5			個人情報の取り扱いには十分に注意をしている。今後もすべての記録や情報の取扱いを強固にしていく。	スタッフに対して個人情報に関する誓約書をとり退職後も情報を流さないことを誓約している。取り扱いについても個人情報に関する物はシュレッダー処理している
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			写真や絵カードで分かりやすく伝える工夫を行っている。	写真、イラストなど本人の理解度や特性に応じて情報を伝達している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	1	地域の方の協力で施設周辺の見守りや畑の整備等をしてもらっている	今後は地域の方々と一緒に行事等を行いたい。今後も地域の方の協力で野菜作りを行う予定。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1	全てのマニュアルは整備しているが、保護者様に対してすべてを周知できているとは言えない。	職員が閲覧できるようにしている。事業所内研修を実施する。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1	年に数回、防災訓練を行い意識付けを行っている。最低年間2回の訓練を行う予定。	予定していた訓練は、コロナウイルスの影響で災害訓練が1回のみ開催だった為、定期的な避難訓練等を行いたい	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1	虐待防止体制を整備し、研修に参加している。事業所内での研修にもあがりしている	虐待防止体制を整備して、虐待防止研修を開催している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5			現在、身体拘束をとまなう支援はおこなっていない。	契約時に身体拘束についての説明を行い、計画書にも記載している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			5	該当する児童がいない。	保護者様からの情報を収集し必要に応じて対応していく。対象児を受け入れた場合、医師の指示書に基づき対応する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1		ヒヤリハットの書式を作成しており、次の支援に役立てる。	ヒヤリハットの事例を参考にして自己啓発を行い、より良い療育につなげる